





# 岡崎教区赤羽別院 宗祖親鸞聖人750回忌御遠忌 法要受待ち

## 10月17日 74年ぶりに 御門首をお迎えして

赤羽別院では、宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌お待ち受け法要を、74年ぶりに御門首をお迎えし、報恩講・帰敬式と併せて10月16・17日に厳修することを決めた。この大願を成就するため、実行委員会を組織し目標に向かって歩を進めた。

去る1月29日、赤羽別院のお待ち受け法要実行委員会の初会合が開催された。同委員会は、お待ち受け法要の企画・立案から実行の全てを担当するもので、31名に委嘱状が伝達された。

委員会は、このなかから実行委員長に第14組車興寺住職・浅野裕彦、赤羽別院輪番を満場の推挙により選任した後、実行委員会規程について検討がなされ承認された。

実行委員会は、平成23年の本山での御遠忌を迎えるにあたり、覚悟をあらたに、あらためて御遠忌の意義をたしかめるものである。その心を御門首が全国の御門徒に直接語りかける機縁でもある。



浅野実行委員長

### 報恩講・帰敬式とあわせて厳修

この度の御遠忌お待ち受け法要は、今秋10月17日(日)の別院報恩講にあわせて、御門首の御親修をおおいで勤修される。

赤羽別院に御門首をお迎えするのは、昭和11年に彰如上人(号仏上人)が現如上人の13回忌法要に御親修され

## 赤羽地域教化センターをモデルとして 別院問題グループ別協議会開かる

現在、全国に51の大谷派別院が相統されているが、門信徒のお寺はなれがすむなかで社会情勢や交通事情の変化等により、教化・財政の両面で別院格差が生じている。それぞれ別院が抱える課題と将来のあり方に、別院の振興を憂う局面を迎えており、これを解消すべく、別院機能の活性化と教化拠点のあり方を検討するため、平成20年に本山において「別院問題研究会」が設立され、過1月19・20の両日本山主催により、「別院問題研究会グループ別協議会」が、赤羽別院において開催された。



黒川参務のあいさつ

### 別院の振興

別院問題研究会は、全国51別院の個々の特性・長所や課題を抽出して、6つのグループに類型化し、効果的な振興策を検討するため「グループ別協議会」を設定した。

今回は、このなかで「教区内の特定地域が崇敬している小規模別院・Bグループ」のうち北ブロック(中部地方以北)16別院を対象となり、そのモデル別院として、赤羽別院が指名された。

別院における積極的な共同教化を思考するとき、崇敬区域の中の寺院や門徒との物理的距離が近いほど、地域に密着した教化の推進や別院崇敬に対する意識の向上が期待できる。そして、更なる振興策は、別院が地域教化センターの機能を併せ持つことである。

赤羽別院は、二〇〇七年七月に、全国に先がけて共同教化の拠点となる「赤羽地域教化センター」を設立した。

### 問題提起と情報交換

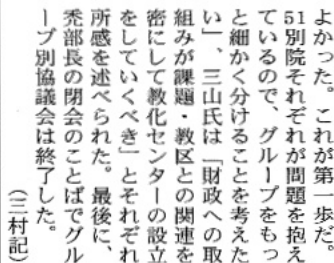
この日は、本山の黒川参務・禿信敬組織部長・北海道から別院問題研究会会長の梨谷哲榮副館長、長浜から宗務審議委員会三山元暎氏同席のもと、本山関係者を交え20余名の参加者が、別院の崇敬と維持について情報・意見の交換をした。

先ず、別院問題研究会の委員であり、今回のグループ別協議会のモデル別院である赤羽別院の教化センター長でもある浅野裕彦より「赤羽地域教化センターの設立の経過と現状について」今までの取組みと現状、今後の課題」と題して赤羽別院の現状報告と問題提起をした。

その要点は「赤羽別院の崇敬区域が明確になったこと、寺院・門徒が別院の将来を危惧し、昭和34年に伊勢湾台風による本堂倒壊以降停滞していた赤羽別院再生への動きが始まった。このような背景のもとに、岡崎教区21世紀プランを念頭に、財源と人材の確保に着手し、組織を構築し、苦難を乗り越えて「赤羽地域教化センター」の設立に漕ぎつけた」というものである。

これを受けて、出席者を2つのグループに分けて、別院協議会に移行し、それぞれのグループで熱心な議論が展開された。初日の会を了えた。

翌日は、別院に実効力のある別院振興策を中心に議論した後、全体協議会にもどり、この会の総まとめとして、今後の問題として、崇敬寺院の模範となる別院・教化センターの設立に必要な人材と財源の確保・遠隔地へのセンター機能の浸透・別院の相互共済の創設・今後も生の情報交換の場としてこのような会の開催、等をはじめとした共有すべき課題が提起された。



全体会場のようなす

(三村記)

## 平成22年初鐘・修正会で明ける

赤羽別院では、あいにくの寒波襲来で冷たい強風が吹くなか、除夜の鐘(初鐘)と修正会のお正月行事をお勤めした。

### 除夜の鐘(初鐘)

大晦日の午後11時半の第1打に始まり、参拝に訪れた大勢の方々が、それぞれの思いを込めて撞く鐘の音とともに新年を迎えた。

お勤めでは暖かい甘酒やみかんが振舞われ、子供さんには菓子袋が配られた。

### 修正会

境内が明るくなった午前7時から、輪番・浅野師の朗声により修正会が動けられた。「修正会」とは、真宗寺院で新年を迎えて初めてお勤めする修行です。和讃は、初鐘に「弥陀成仏のこのがたは」を引き、御文は、一帖目第一通「或る人曰く」と、どちらも一番にもしてお勤めされることと由縁します。



2010年0時00分

## 歴史を誇る双全講

真宗大谷派では、明治18年第21代厳如上人の時代に、宗祖親鸞聖人の教えを、子々孫々につなげる「法義相統」と「本廟・東本願寺の護持」を目的とした「相統講」が設立された。

これを受けて、全国の殆どの末寺においても、この精神を受けついで人々が集り相統講を組織した。



この講義双全講は、当赤羽別院だけに存在する特別である。

時とともに、移ろうが如く末寺の相統講は次第に衰退していったが、双全講は、昭和34年の伊勢湾台風により別院護持の双つを全うする強い意志を顕わ

にお御堂が建立されるまでの間も、その活動は休止することなく続き今日に至っている。双全講の法会は、毎年1月に営まれ、その年にお亡くなりになった講員やその家族の名前を「法名記」なる帳面に記し、追平会と永代供養法要をお勤めし、また、講員による報恩講も厳修される。今も1月15日に営まれ、読経に引き続き午前・午後ともに、第8組安楽寺住職・伊奈祐諭師の法話を聴聞する法会となった。

(藤原記)



# 子供報恩講

## 第8組 安楽寺

第8組 安楽寺では、毎年1月24・26日の三日間報恩講がお勤めされる。このなかで、中日の25日には子供報恩講が催され、今年も午後5時から親子連れの子供を含め大勢が参加した。

子供報恩講は、昭和41年発足以来続けられており、かつては、寺に宿泊して「肝だめし」や「探検」をしたり、「飯盒炊飯」など子供が充分楽しめる企画だったそうです。

「今日では、塾通いの子供さんが多くて参加者が少なくなくなったのが残念ですが、継続することが大事です」と御住職は話

されました。この日は、御住職の講声で正信偈をお勤めした。が、経本を指でなぞりながら発声している小さな子供の姿が輝いていた。美味いお齋をおなか一杯いただいた後、3名の岡崎教区児童重化連盟の若いお寺さんのリードで「陣とりゲーム」では、喜々としゃく姿が、また、人形劇「つるになつたきつね」では、「子狐が父親の身替りになって鉄砲で撃たれて死ぬ」物語りを身しるぎもせずに見入っていた。

子供報恩講は、子供の教化につながるだけでなく、同伴される若い親御さんやその家族にとっても、仏縁にふれる貴重な法会となる。

御住職のおっしゃった「子供の明るい声が聞こえるお寺にしよう」との言葉が強く印象に残った。(佐々木記)



陣とりゲームを楽しむ

# 盛会音楽法要

## 第9組 良興寺

第9組吉良町・良興寺では、2月19日から厳修された報恩講の一環で、21日に7回目となる音楽法要がお勤めされた。70余名の参詣者のなかに、数名の小学生が混り、まさに、老若男女が揃ってお勤めする法要であった。

まず、長田明子先生の指揮により、「真宗宗歌」など仏徳讃嘆のうた7曲と童謡「ふるさと」等あわせて13曲が斉唱された。皆さんの真剣なまなざしと素晴らしいハーモニから、お寺で相当の練習を重ね

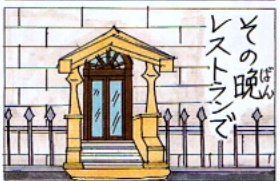
てこられたことが窺えた。この後「弥陀の名号となえつつ」他の和讃に曲を付けられた作曲家の平田聖子先生の講話となった。

先生は、諸仏のなかで一人、自己中心の私たちを救おうとされた法蔵菩薩の御ことを、その心が成就し、南無阿弥陀仏を勧め下さったことを思い作られたこと、また、私たちは南無阿弥陀仏の本願パワに触れると、煩惱もつたままでも如来と等しい位になるのですと力強く説かれた。



真宗宗歌合唱

# ゴボちゃん HOUSEN



# あの人縁の下のちから持ち

日々、黙々と別院を支えて下さる方々がいる。鐘撞・境内の清掃整備・お磨き等下働きは全ておまかせとばかりで、まさに縁の下の力持ちであった。

そんなお仲間にお話を聞かせていただいた。石原さんー私はお仏飯を炊かせて頂いています。他に、はここにいてになる女性の方と一緒に、お齋の支度・お磨きや境内の清掃などのお手伝いをしています。高橋さんー隔週で朝顔を撞いてます。お堂の戸締り当番と、別院で動まる年5回の法要には、受付などのお手伝いをしています。吉崎さんーこの仲間とおあさじにお話し、お磨きやお齋の支度などをお手伝いしております。加藤さんー主人の35日法要を勤めた後、おあさじ会の仲間に入れていただき、庫裡の清掃やお齋・お磨きなどおあさじもなっています。おあさじがなければ一日が始まりません。吉崎さんー本当にそうだな。時間がある限りおあさじに話させてもらい、皆さんと同じようなお手伝いをしております。飯田さんー私は境内全体の掃除や樹木の手入れなどの



華束づくり 晨朝の鐘撞 樹木の剪定 お齋のしたく

# 研鑽を積む 嘱託輔導学習会

嘱託輔導は、本山の同朋会館へ、全国から上山される奉仕団の方々をお世話する役目をお勤めしている。

ご縁をいただいた奉仕団の目的・希望や人員構成などを伺い、充実した上山となるよう心がけなければならぬ。このように重大な任務を負う輔導が、学びの場に身を置き己を磨くため毎月一回学習会を開いている。

今回は、去る1月20日に西門徒さんお一人一人と向き合うことの難しさ、寺を含め地域共同体が崩れつつある時代だからこそ、どのように意識改革をしたうえで仏法をいたしていくかが、今回の学習会で新たな課題となった。(石川祐記)



熱心な議論を展開

石碑・神仏前・石製品加工販売・石垣工事  
心をこめた石づくりの店  
有限会社 **中村石材店**  
代表取締役 中村栄児

西尾店 愛知県西尾市下町御城下34番地2  
TEL (0563) 54-3754 番  
工場 愛知県西尾市田貫深田  
TEL (0563) 59-3222 番  
FAX (0563) 59-0702 番

必要とされる会社・信頼される会社  
目指しています!!

- 企画・デザイン
- 記念誌・名簿・会社案内
- ポスター・パンフレット・チラシ
- デジタル情報加工
- 小冊子・各種伝票
- 名刺・封筒・DM etc.

あらゆる印刷会社 **コーセー社**

〒444-0525 幡豆郡吉良町富田殿海戸91  
TEL (0563) 32-0334 FAX (0563) 35-0382

バスで行く。くつろぎのひとときを...  
ドラゴスバック

名鉄観光バス  
西尾支店 TEL (0563) 57-2062



# 回想法を学ぶ

去る11月24日、北名古屋市の「回想法センター」を見学しました。

高齢者を対象に、昔の生活用具や子供の頃の思い出などを語り合うことで脳を活性化させ、生活意欲の向上を図る心理療法が回想法です。

10人程のグループが輪になり、昔の弁当箱を手にして、全員が「私のはもっと分厚かった」とか「僕のは著入れがついていた」等、自分を通しての経験を話していくのでむつまじく考えることは



視察団・回想法を体験

なく、気軽に参加できるのが良いと感じました。参加者は毎回同じメンバーで、8回を通じて行われ、回想法において出

た話は、決して外で話さず、また、他人の話に指摘や非難をしないルールとなっております。これが守られているので回を重ねるごとに人との関係が深まり、お互いに信頼し語り合える仲間ができることで、日々の生活を生きていくことができそうです。

回想法は、認知症の予防・回復効果があり、現代社会が求める素晴らしい活動だと思います。

暮らし部 副部長 伴 仁志



本堂

如光は、伝説では油が淵から生まれた竜の子であったといわれており、現在も道路を隔てた北側に如光堂があり、それを物語ります。やがて上人のお弟子となり、実力者として上人の片腕として働き、彼の大谷破却に際しても三河より財物を運び比叡山側をこれによって黙らせたのです。

如光には、西三河矢作川流域を中心に、尾張木曾川流域や大和吉野に至るまで、門徒が点在していたことが知られており、交易にも関わった人でもあったようです。応仁寺の地は、油が淵となる以前の三河湾の入り江の一つで、安全に舟の発着が出来たとこ

であつたり、如光の墓が驚塚に築かれたとする上宮寺の伝承を思ふと、如光の活躍の大きさが伝わって参ります。こうしたことから、如光所縁の西端道場(後の応仁寺)は、上人と如光の格別の関係から成立したものと知られます。それは伝来する法室物からも



如光堂

## 蓮如上人ゆかりの 応仁寺を訪ねて

三河には数多くの蓮如上人御旧跡と伝える寺々がありますが、西端応仁寺はその中心的役割を持ったお寺です。今はショウブの名所となった門前帯は、油が淵が広がりを「蓮如池と呼び親しみ、「西端の蓮如さん」として五百年の間、蓮如上人の「聖地」として無住でありつつ、護持されて来ました。

御影道中に参加するようになった由縁は？

奥様 一九九八年の蓮如上人五〇〇回遠忌の折に、このような行事があることを知り、翌年の五月二日に道中にお会いしたいと思ひ、吉崎御坊にお参りさせて頂きました。

主人 その時、皆さんの生き生きとした顔に出合ひ、飛び入りで吉崎から福井別院まで夢中で歩きました。それが始りです。

「ご主人は帰敬式を受けられたんですね。」

主人 私が供奉人(全行程を歩き道中の世話をする人)を引き受けたとき、他の八名の供奉人がみな

## 人間模様 その4

蓮如上人の御影を、京都・御本山と越前の吉崎御坊間を歩いて運ぶ「蓮如上人御影道中」は、今年で三三回を迎える歴史的な行事である。

この御影道中に、11年間も続けてご夫婦揃って携わってられる、第14組・等覚寺門徒 村松年秋・標榜御夫妻にお話を伺いました。

「御影道中に参加するようになった由縁は？」

奥様 一九九八年の蓮如上人五〇〇回遠忌の折に、このような行事があることを知り、翌年の五月二日に道中にお会いしたいと思ひ、吉崎御坊にお参りさせて頂きました。

主人 その時、皆さんの生き生きとした顔に出合ひ、飛び入りで吉崎から福井別院まで夢中で歩きました。それが始りです。

「ご主人は帰敬式を受けられたんですね。」

主人 私が供奉人(全行程を歩き道中の世話をする人)を引き受けたとき、他の八名の供奉人がみな



先頭を歩く村松さん

「御影道中に携わってこれられて何か感じることはありますか？」

主人 やはり仏法は大事だと思います。今日では報恩講などでもお参りが少ないのが残念です。

「今後の目標は？」

夫妻 長く続けられるように、常に歩いて健康に留意し、上山奉仕はもちろんです。いろいろな仏さまのことに携わって行きたいと思っています。(浅野記)

### 赤羽地域教化センターウェブ

[http://www.katch.ne.jp/~akabane\\_betuin/](http://www.katch.ne.jp/~akabane_betuin/)

いまの別院の動きを伝えるウェブをご覧ください。

携帯からのアクセスはこちらから

1. 仏事Q&A
2. 行事案内
3. 赤羽御坊日誌

### 仏事Q&A

◆打敷は、いつ・どのようにお掛けするのですか？

◆打敷は、修正会・お彼岸・お盆・報恩講・年回忌法要などの法要のときにお掛けし、普段はお掛けしません。

◆上卓と前卓に、それぞれ五角形にお掛けし、建水板を載せます。建水板は金色の側面を前にして、筆返し(耳)を外し、または、耳のないものを使用します。(写真1)

◆以上が打敷の正しいかけ方で、打敷の両端部分を縦に折りたたみ(写真2)、三角形にお掛けすること、また、卓の下(写真3)にお掛けすることもありません。(小栗記)

写真1 正しい掛け方

写真2 まちがった掛け方

写真3

### 編集部

#### 広報部からのご願い

「赤羽御坊」は、毎月二万二千部を発行し、この内九千五百部を御門徒向けとして、各々の寺院にお届けしています。が、寺院により御門徒への伝達手段に相違があるうえに、その取組みに対する温度差により配付率は充分とはいえず、なかには、全く手にしたことのない人や、その存在すらご存じない方もあります。

本山が発行する「同朋新聞」同様、できるだけ多くの方々にご愛読いただくことが私達の願いであり、各寺院の御住職はじめ役員の方々の御協力をお願い申し上げます。

#### 山門修復 ご懇志

(二月二十日現在・敬称略)

浅野 怜	石川 鴻英
永覚寺	永覚寺門徒会
光専寺	
石川 達夫	市古 賢治
杉本 十万明	高橋 祐治
野尻 直哉	山本 三郎
山本 富夫	

以上の方々から、併せて42万円のご懇志をお寄せいただきました。

#### 赤羽御坊新聞ご懇志

第10組

厳西寺同行中 厳西寺同朋の会

お寺 養林寺 浄覚寺(豊田市)

貴重なご懇志をありがとうございます。